



2025年3月期 決算説明

(2024年4月1日～2025年3月31日)

2025年 5月 14日

イバラ食品工業株式会社

証券コード：2819

1. 2025年3月期 決算報告 2026年3月期 業績見通し

■ 取締役

栗野 裕

2. Ebara Reboot 2026 の進捗について

■ 代表取締役社長 森村 剛士

2025年3月期 決算報告

連結業績

単位：百万円

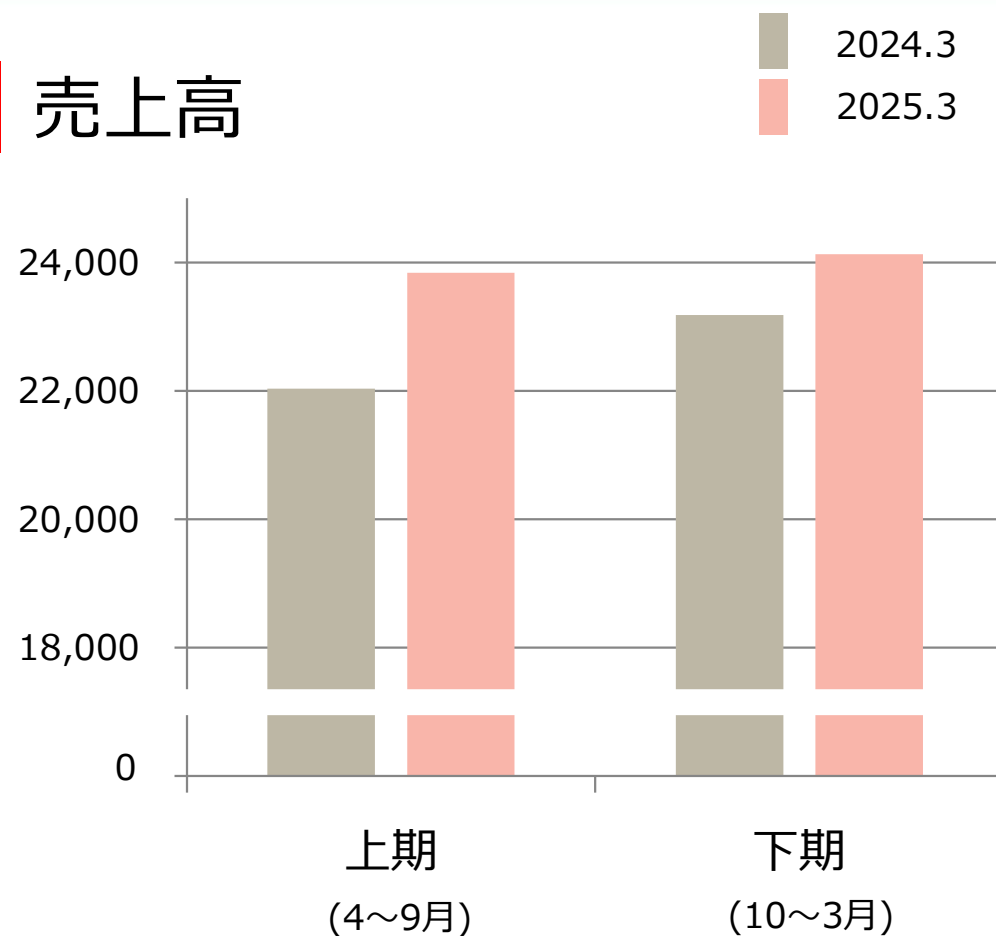
- ✓ 売上高は家庭用、業務用商品がそれぞれ伸長し、前期比6.1%の増収
- ✓ 営業利益は売上原価率の上昇等により15.4%の減益

	2024.3	2025.3	2024.3 対比		2025.3 計画対比 (2025/2/14開示)		
			増 減	増減率	計 画	未達額 (▲は計画超過額)	進捗率
売上高	45,216	47,963	2,746	6.1%	48,000	36	99.9%
売上原価	28,853	31,440	2,587	9.0%			
	63.8%	65.6%	1.7pt	—			
売上総利益	16,363	16,522	159	1.0%			
	36.2%	34.4%	▲1.7pt	—			
販管費	13,962	14,490	528	3.8%			
	30.9%	30.2%	▲0.7pt	—			
営業利益	2,400	2,031	▲368	▲15.4%	2,000	▲31	101.6%
	5.3%	4.2%	▲1.1pt	—	4.2%		
経常利益	2,628	2,113	▲515	▲19.6%	2,100	▲13	100.6%
	5.8%	4.4%	▲1.4pt	—	4.4%		
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,802	1,399	▲402	▲22.3%	1,400	0	100.0%
	4.0%	2.9%	▲1.1pt	—	2.9%		

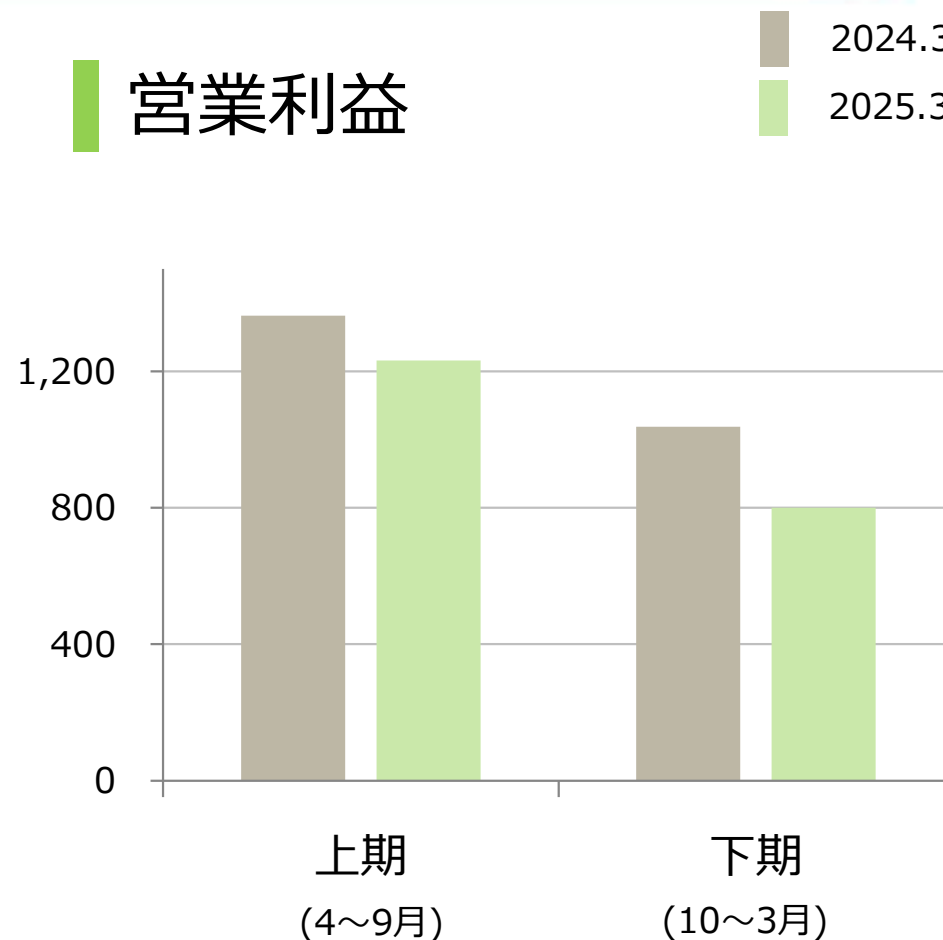
売上高/営業利益（半期推移）

単位：百万円

売上高



営業利益



2025.3	23,835	24,128
2024.3	22,035	23,181
増減	1,800	946
増減率	8.2%	4.1%

2025.3	1,231	800
2024.3	1,363	1,037
増減	▲131	▲237
増減率	▲9.6%	▲22.9%

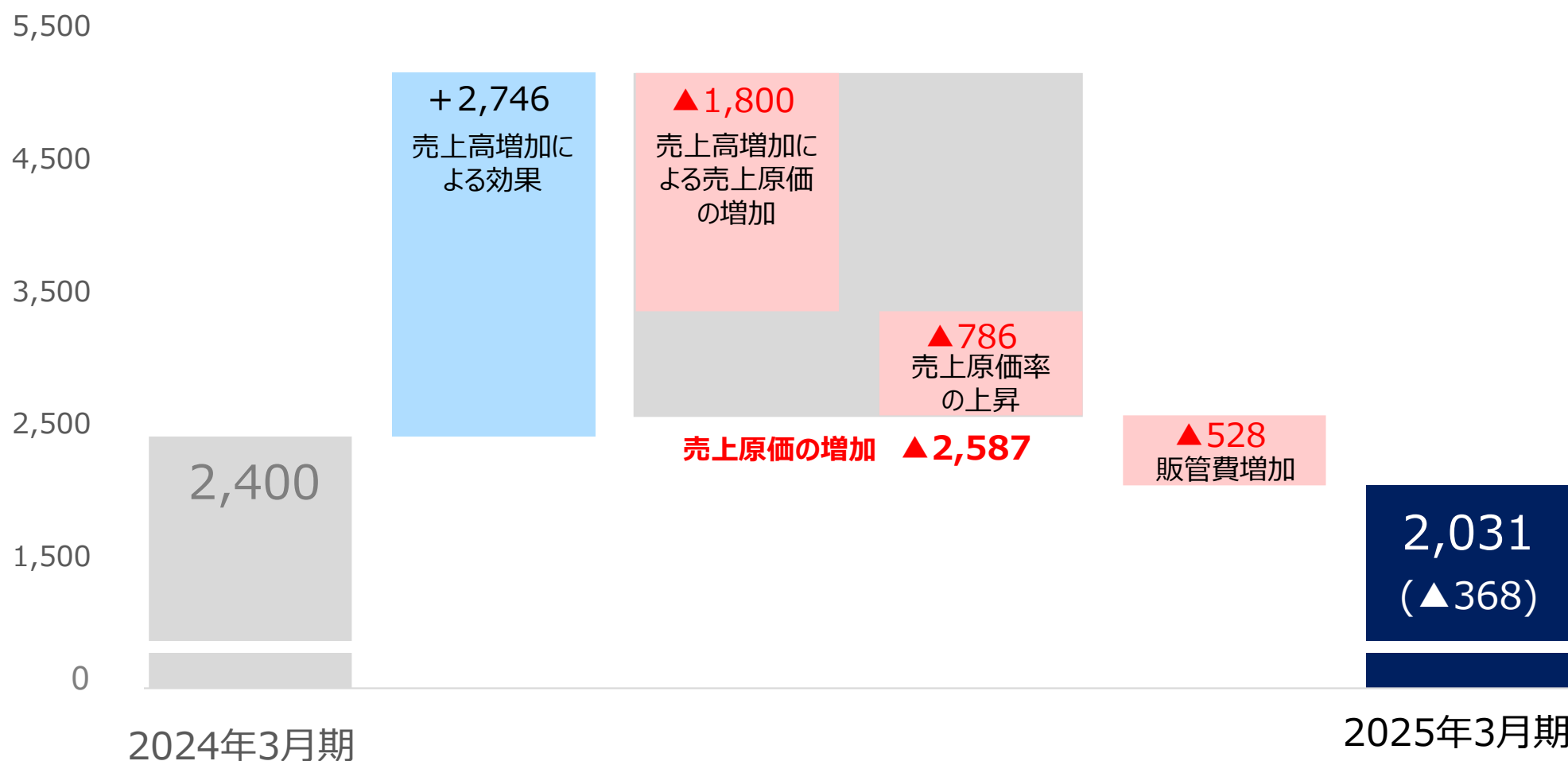
営業利益 増減分析

増益要因

減益要因

単位：百万円

- ✓ 原材料価格高騰や減価償却費の増加に伴う売上原価率の上昇が利益減の主要因

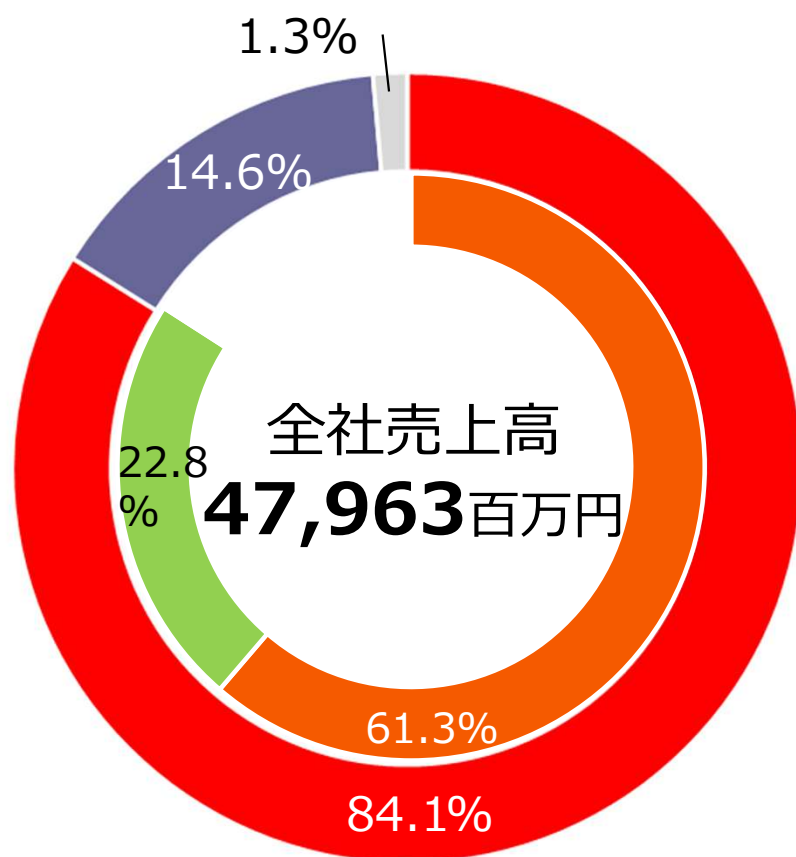


2025年3月期 決算報告

セグメント・製品区分別 売上高

セグメント・製品区分別 売上高

売上構成比（2025年3月期）



食品事業	40,364百万円	(前期比6.4%増)
家庭用商品	29,419百万円	(前期比2.2%増)
業務用商品	10,945百万円	(前期比19.6%増)
物流事業	6,993百万円	(前期比5.4%増)
その他事業	605百万円	(前期比5.0%減)

セグメント・製品区分別 売上高

単位：百万円

食品事業（家庭用商品）

売上高増減率
前期比

+ 2.2%

2025.3

29,419

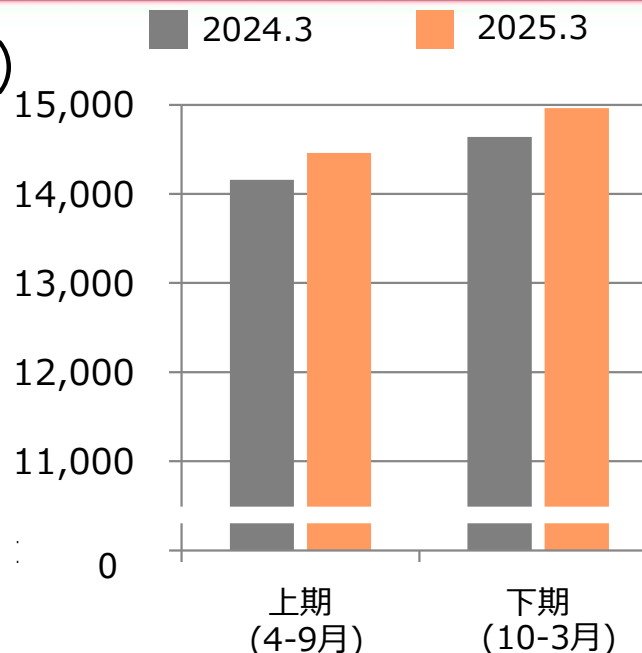
2024.3

28,798

増減

+ 621

通期売上高



ポーション調味料等の売上が大きく伸長

売上伸長商品(抜粋)



食品事業（業務用商品）

売上高増減率
前期比

+ 19.6%

2025.3

10,945

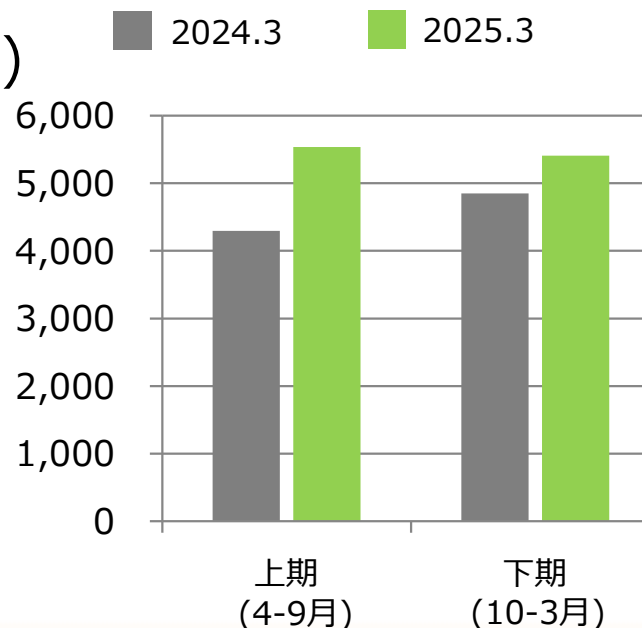
2024.3

9,148

増減

+ 1,797

通期売上高



全商品群で売上伸長

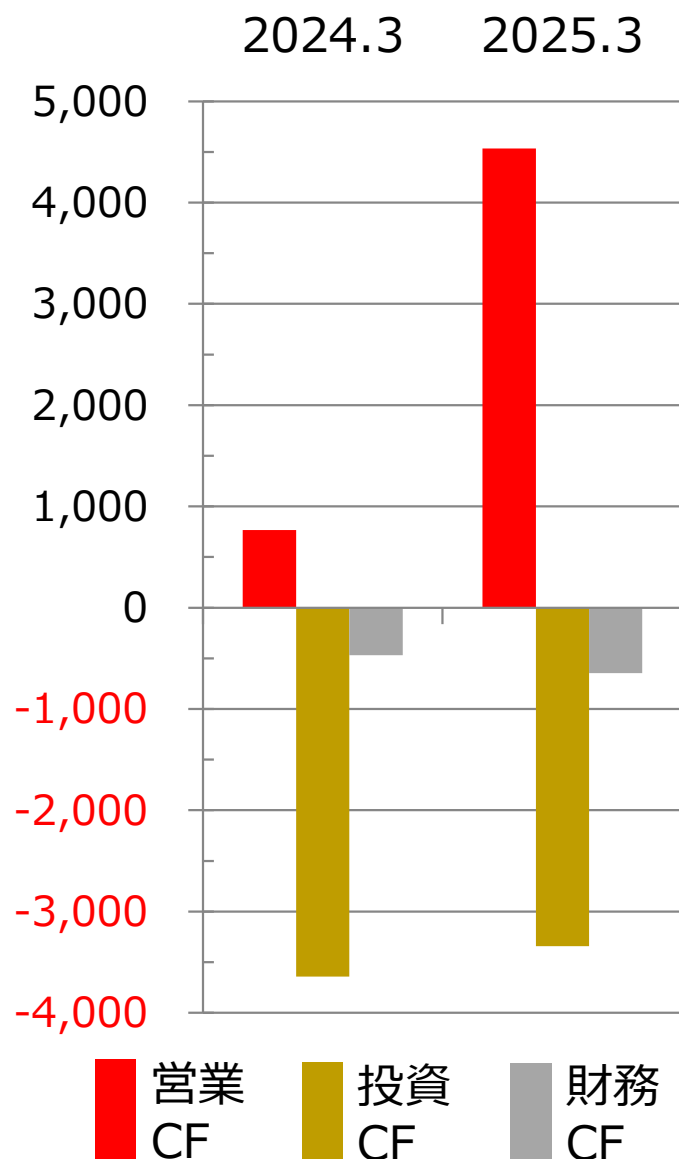
- ・丸二株式会社の連結に伴う増収
- ・海外事業における業務用商品の売上伸長も貢献

2025年3月期 決算報告

キャッシュ・フロー

キャッシュ・フロー

単位：百万円



	2024.3	2025.3	増 減
営業キャッシュ・フロー	767	4,533	3,766
投資キャッシュ・フロー	▲3,642	▲3,343	298
フリーキャッシュ・フロー	▲2,875	1,190	4,065
財務キャッシュ・フロー	▲468	▲645	▲177
現金及び現金同等物の増加額（▲は減少額）	▲3,210	612	3,823
現金及び現金同等物の期末残高	14,379	14,992	612

2025.3

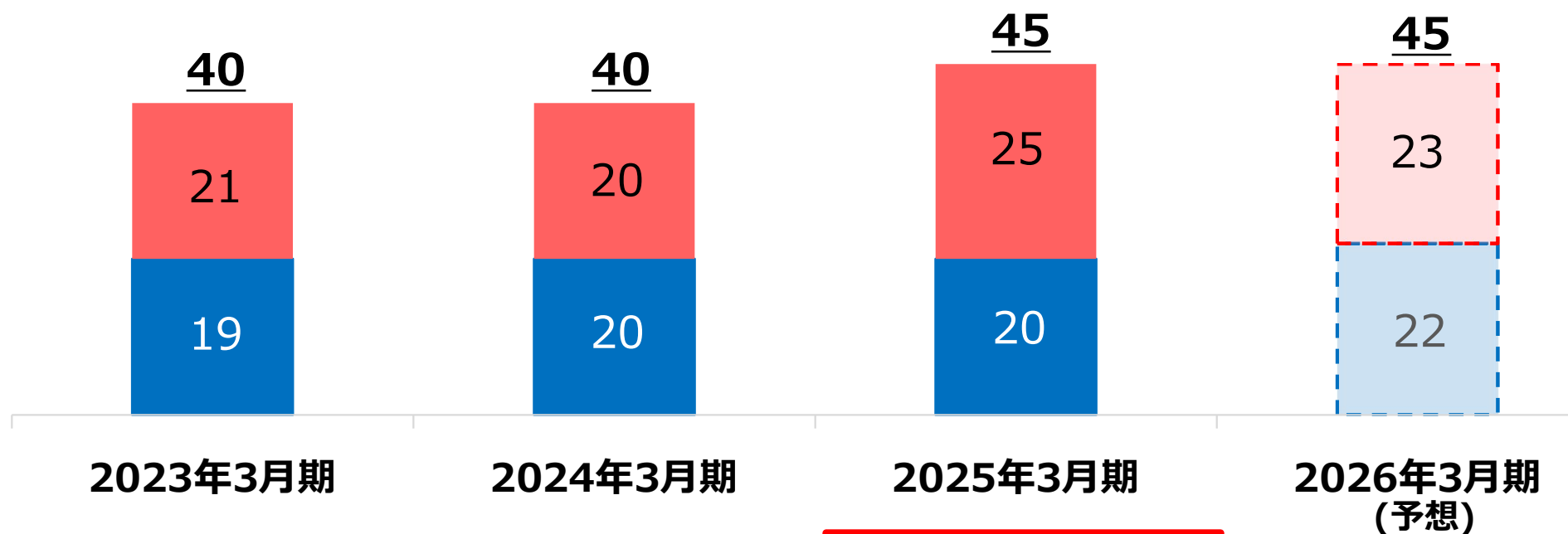
営業CF	税金等調整前当期純利益	2,082百万円
	減価償却費(のれん償却含む)	1,514百万円
	売上債権の減少	2,564百万円
投資CF	有形固定資産の取得	▲3,397百万円
財務CF	配当金の支払	▲392百万円

株主還元

株主還元

■ 1株あたりの配当金額の推移(円)

■ 中間配当 ■ 期末配当



	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期	2026年3月期 (予想)
配当総額 (百万円)	392	392	439	439
配当性向	18.0%	21.8%	31.4%	62.8%
自己株式 取得額 (百万円)	147	0	177	適宜検討
総還元性向	24.8%	21.8%	44.1%	(中計目標：50%以上)

2026年3月期 業績見通し

2026年3月期 業績見通し

単位：百万円

業績見通し

	2025.3	2026.3	増減率	増減要因
売上高	47,963	48,400	0.9%	✓ 主力商品の販売増加
営業利益	2,031	1,000		
	4.2%	2.1%	▲50.8%	✓ 売上原価約8億円上昇 -原材料コスト -減価償却費 (タイ工場、津山ポーションライン) -物流費用など
経常利益	2,113	1,200		
	4.4%	2.5%	▲43.2%	✓ 販管費約2億円上昇 -海外事業の費用増加など
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,399	700		
	2.9%	1.4%	▲50.0%	

1. 2025年3月期 決算報告
2026年3月期 業績見通し

■ 取締役

栗野 裕

2. Ebara Reboot 2026 の進捗について

■ 代表取締役社長 森村 剛士

エバラ食品グループの長期ビジョン

ミッション

- 1 国内/海外における次代の中核を成す多様な人材が育成・登用され、エバラ食品グループが密接に連携したビジネスフォーメーションの実現
- 2 製造体制の変革により、大量生産から多品種少量生産までの対応力UP、液体に加え粉末調味料分野でもビジネス領域を拡大
- 3 自社の技術力、ニッチ&トップ戦略をベースにした健康分野を始めとする新たなビジネス確立と特定領域におけるリーダーカンパニーの地位獲得
- 4 東南アジア地域における自社商品の浸透と、その他地域への拡大
- 5 ICTの利活用を通じた「データ活用型経営」「業務プロセス改革」の実現

2033年度にありたい姿

**おいしさ、たのしさ、あたらしさで
食カテゴリーを創造する企業**

独自性のある商品・サービスで
人々の食生活に貢献し、
社会に必要とされる存在へ

連結
数値目標 EBITDA **60億円水準**
ROE **7%以上**

Final Phase
(2030~2033)
最高益更新

Next Phase
(2027~2029)
新領域開拓
事業成長

First Phase
(2024~2026)
成長への
基盤固め

中期
経営計画

Ebara Reboot 2026

連結
数値目標

EBITDA(営業利益+減価償却費) **40億円**
海外売上高比率 **5%以上**
総還元性向 **50%以上**

中期経営計画 (2024年度～2026年度)

中期 経営計画

Ebara Reboot 2026

重要方針

「売上拡大＝利益獲得」ではなく、
「適正な経営資源投下による売上形成・利益最大化」に取り組む

グループ 基本戦略

1. 既存事業/領域を磨き上げ、高収益化を追求
2. 新市場/新価値創造による新たな成長軌道の確立
3. 従来 of 枠組みに捉われない経営基盤改革の深化

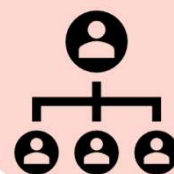
既存事業



新価値創造



人的リソース



ICT化



プロセス改革



連結数値目標

EBITDA 40億円 海外売上高比率 5%以上 総還元性向 50%以上
(営業利益＋減価償却費)

1. 既存事業／領域を磨き上げ、高収益化を追求

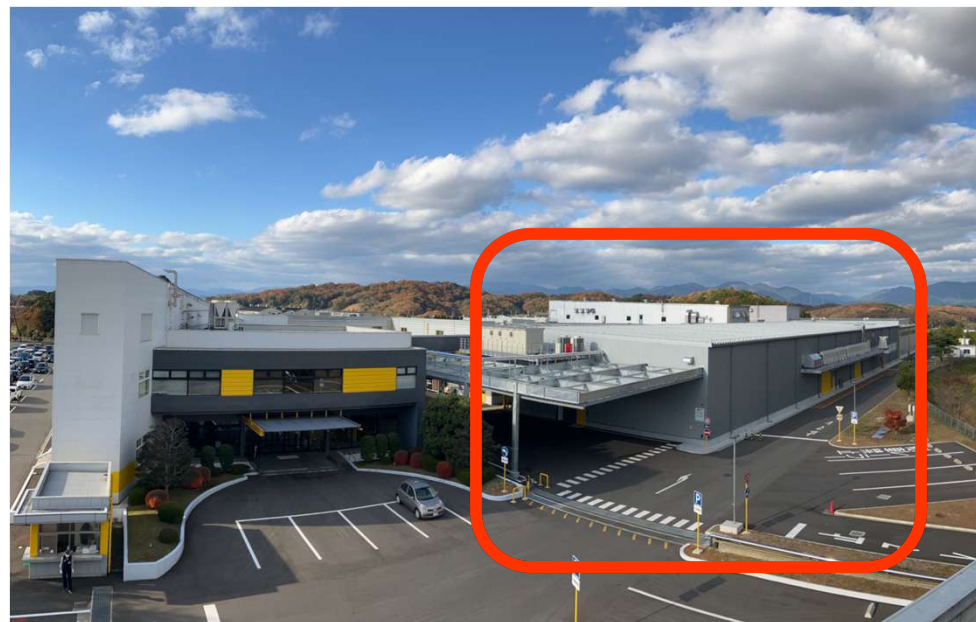
新ラインを活用してポーション調味料の売上拡大を目指す

- ◆ 津山工場(岡山県)に約34億円を投じ、ポーションラインを新設
2024年10月稼働開始、2025年度本格稼働に向け順調に進捗
- ◆ 栃木、津山、両工場で生産することで輸送効率も向上、さらなる売上拡大へ

2025年2月には
『プチッと中華』を新発売



津山工場で稼働開始した
新ポーションライン（赤枠）



2. 新市場／新価値創造による新たな成長軌道の確立

海外売上高比率 5 %以上を掲げ、着実に売上を拡大

- ◆中計初年度は輸出売上高と合わせ、海外売上高比率4.7%を達成
- ◆海外売上拡大に向け、約29億円を投資しタイ工場を新設、2024年8月に稼働
- ◆東アジア、東南アジアを中心に、業務用商品の販路を拡大



2024年8月に稼働を開始したタイ工場



タイ工場製造商品

2. 新市場／新価値創造による新たな成長軌道の確立

丸二株式会社の取得で新たな製造能力や販路を獲得

- ◆エバラ食品グループとして新たな領域の商品ラインアップを拡充
- ◆グループ内の人材交流を推進、商品開発・製造・販売の連携を強化



丸二株式会社（2023年10月株式取得）



丸二株式会社の粉体調味料

3. 従来の枠組みに捉われない経営基盤改革の深化

人的リソースの機能を最大化するため、各施策を実行

- ◆グループ会社との人材交流を活発化（丸二株式会社等）
- ◆従業員同士が学び合う機会を創出
- ◆従業員との対話の機会を創出
（全国各拠点でタウンホールミーティングを開催、エンゲージメント調査を実施）



グループ会社との
ディスカッション

タウンホール
ミーティング
の様子



連結数値目標の達成に向けて

2025年度は中長期を見据えた投資や費用支出を実行
海外事業は着実に成長、海外売上高比率は5%達成の計画

	2024年度 実績	2025年度 計画	2026年度 数値目標
EBITDA (営業利益+減価償却費)	3,545百万円	2,700 百万円	4,000 百万円
海外売上高比率	4.7%	5 %以上	5 %以上
総還元性向	44.1%	50%以上	50 %以上

～ 参考資料 ～

〔参考資料〕 会社概要

商 号	エバラ食品工業株式会社
本店所在地	横浜市西区みなとみらい四丁目 4 番 5 号
代 表 者	代表取締役社長 森村 剛士
事業内容	調味料食品の製造販売
資 本 金	13億8,713万円
設 立	1958年（昭和33年） 5月
従業員数	【連結】 870名 【単体】 516名 （2025年3月末時点）
連結子会社	株式会社 エバラビジネス・マネジメント 株式会社 横浜エージェンシー & コミュニケーションズ 株式会社 エバラ物流 株式会社エバラフーズ・サービス 丸二株式会社 EBARA SINGAPORE PTE. LTD. 荏原食品（上海）有限公司 荏原食品香港有限公司 台灣荏原食品股份有限公司 EBARA FOODS (THAILAND) CO., LTD. EBARA FOODS MALAYSIA SDN. BHD.
持分法適用会社	株式会社スギショーテクニカルフーズ

〔参考資料〕 沿革①

1958年	5月	荏原食品株式会社 設立
1968年	1月	『札幌ラーメンの素（味噌スープ）』発売
	3月	『焼肉のたれ・朝鮮風』発売
	7月	エバラ食品工業株式会社に商号変更
1970年	4月	テレビCM 開始
1978年	6月	『黄金の味』発売、テレビCMを全国一斉放映
1980年	7月	群馬工場（群馬県伊勢崎市）稼働
1984年	4月	栃木工場（栃木県さくら市）稼働
	11月	宣伝部門を独立 株式会社横浜エージェンシーを設立
1990年	5月	株式会社エバラ物流を設立
1994年	4月	津山工場（岡山県津山市）稼働
2003年	11月	日本証券業協会に株式を店頭登録
2004年	9月	株式会社サンリバティー横浜（人材派遣業）を子会社化
	12月	ジャスダック証券取引所（当時）に株式を上場
2005年	4月	荏原食品（上海）有限公司を設立
2011年	6月	チルド事業に関する合併会社 株式会社エバラCJフレッシュフーズを設立
2012年	11月	荏原食品香港有限公司を設立
2013年	11月	東京証券取引所市場第二部に市場変更
2014年	4月	株式会社横浜エージェンシーが株式会社サンリバティー横浜を吸収合併
	5月	株式会社横浜エージェンシーが株式会社横浜エージェンシー＆コミュニケーションズに商号変更
	5月	本社を横浜市西区みなとみらい四丁目に移転
	12月	東京証券取引所市場第一部に指定

〔参考資料〕 沿革②

2015年	3月	荏原食品香港有限公司 シンガポール支店を設立
2017年	1月	台灣荏原食品股份有限公司を設立
2018年	8月	EBARA SINGAPORE PTE. LTD.を設立
2021年	6月	EBARA FOODS (THAILAND) CO., LTD.を設立
2021年	10月	合併会社 株式会社エバラCJフレッシュフーズの全株式を譲渡
2022年	1月	株式会社スギショーテクニカルフーズの株式を取得
2022年	4月	株式会社エバラビジネス・マネジメントを設立
2022年	5月	EBARA FOODS MALAYSIA SDN. BHD.を設立
2022年	5月	ヤマキン株式会社の株式を取得
2023年	10月	丸二株式会社の株式を取得
2025年	4月	株式会社エバラフーズ・サービスを設立

免責事項

本資料には、将来の業績に関する記述が含まれています。こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。将来の業績は、経営環境の変化等により、実際の結果と異なる可能性があります。実際の業績等に影響を与える可能性のある重要な要因には、以下の事項があります。なお、業績に影響を与える要因はこれらに限定されるものではありません。

- 主要市場における景気動向
- 為替動向、金利変動
- 資本市場の動向
- 価格競争の激化
- 調達環境の変化
- 提携、アライアンス、技術供与による競争関係の変化
- 公的規制、政策、税務に関するリスク
- 製品、サービスの欠陥や瑕疵に関するリスク
- 研究開発投資、設備投資、事業買収・事業再編等に関するリスク
- 自然災害や突発的事象発生に関するリスク
- 会計方針の変更

こころ、はずむ、おいしさ。

エバラ